

おむつを通じて皆さまへお伝えしたい私の想い

皆さまこんにちは。ユニ・チャーム株式会社 澤田朋子です。
今回皆さまとお近づきになれたことを光栄に思い、少しだけ私の個人的な想いを伝えさせていただき、少しでも紙おむつに対して興味を抱いて頂けたらとペンをとるのではなくパソコンに向かってみました。

皆さまは紙おむつに対してどのような想いを抱いておられますか？トイレで排泄することが困難な方が仕方なく使用される道具でしょうか？もちろん間違っていないと思います。しかし紙おむつは使い方によっては、その方の生活を制限させてしまったり、全くその逆で豊かにすることも可能な道具だと私は想っています。

前者については、おむつになってしまったと疲弊し、トイレを諦めてしまう、トイレを諦めてしまうことによって生活そのものに希望を持たれなくなってしまう、自分はもう駄目な人間なんだと想ってしまう方もあるかもしれません。小さなお子様は自尊心がないのに対し、大人は成長とともに得た自尊心があり、おむつに対して抵抗がないわけがありません。排泄は誰の手助けもなく、個人のペースでプライバシーを確保されて行っていたわけですから…。今ご自身が「今日から紙おむつで排泄をしてください。紙おむつの交換は私たちスタッフが交換して差し上げますからね！」とやさしくお声掛けされたとしても「よろこんで！」なんてお気持ちになるのでしょうか？せめて交換は自分自身でさせて欲しい、そんなお気持ちになられるとともに、その瞬間にこれまでの当たり前の日常に制限をかけられるのではないかと思います。

後者についてはどうでしょうか？布の下着ではトイレに行きたいと思ってもトイレまで我慢できず下着を汚してしまう、下手すればズボンまで…そんな心配をするくらいなら家で過ごしていた方が良いでしょう。そんな心配を紙おむつ（失禁用パッドや薄型紙パンツ）を使用いただくことで払拭できたら、これまで楽しんでおられた旅行やスポーツを諦めることなどなくなりますよね。

私の母は悩むことなく失禁パッドと薄型紙パンツを使い分けして、毎日スポーツや畑仕事を楽しんでいます。父は70歳を過ぎても仕事で全国あちこちを訪問していますが、失禁パッドがあることによって心配することなく飛行機に乗ることが出来ると喜んでいました。

両親は私がこのような仕事をしていたことで失禁を気にすることなく、毎日元気に楽しく生活してくれています。

数年前に松江で開催されたイベントに参加させていただき、弊社は失禁パッドを中心にブースを立ち上げていました。ブースに立ち寄ってくださった方は中高年の方ばかりではなく、比較的若い女性の方も恥ずかしそうにしながら相談される場面もありました。妊娠することで失禁に悩まれる方がいらっしゃるから生理用コーナーにも失禁パッドがあることを案内すると、何となくお顔が緩んで数枚のサンプルをお持ち帰りされました。このイベントで一番衝撃を受け、今でも忘れられないのが、9歳の女の子が「おばちゃん、私もこれ使ってるよ！ほら！」とポケットから失禁パッドを私に見せてくれました。あまりにも当たり前のように話してきたその子に対して、紙おむつの素晴らしさを感じるとともに失禁パッドがあったから、それを正しく使って頂くことが出来たからこそ、あの子の笑顔を見ることが出来たんだと涙が出そうでした。残念ながら弊社の商品ではなかったのですが、『おばちゃんの商品も使ってみて～！』とサンプルを差し上げました。

このように紙おむつは使い方を間違わなければとても素晴らしい商品で、失禁に悩む人たちの生活をより豊かにしてくれる道具であると私は信じています。何かのきっかけによりテープ型おむつで入院されたとしても、リハビリが可能になったならば紙パンツに、トイレ動作が可能になったならば布の下着に失禁パッドを皆さまがお勧めして頂けるとありがたいです。そして失禁が少し気になり始めている可能性がある方には、そっと1枚失禁パッドを差し上げて頂けるとありがたいです。

医師が病状によってお薬を処方されるように、リハビリの専門職である皆さまが紙おむつの選択をして頂けたらと期待しております。
私の勝手な想いにお付き合い頂きありがとうございました。

そして、今月末開催されます理学療法士学会が成功されますことをお祈りいたします。

今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

ユニ・チャーム株式会社
澤田 朋子